

区史の発行部数について

1 経過

区民に身近に感じられる区史として、「(仮称)新・港区史」は、刊本発行の他、Webにおいて公開することとし、区民がいつでもどこでも区史を見られるようWeb公開を基軸として区史の発行形態について検討してきました。

「(仮称)新・港区史(図説版を除く)」の発行部数について、50部とすることを平成28年度第1回港区史編さん委員会において付議しましたが、発行部数が少ないとのご意見がありましたので、有償頒布の有無や寄贈先を再検討し、見直しました。

2 発行部数の考え方

発行部数の検討に当たっては、予め監修者会議の意見を伺ったうえで、考え方を以下のとおり整理しました。

- (1) Webが普及しているものの、Webがあれば本が不要であるということではないということ、また、平成30年度第1回監修者会議(6月5日開催)においても、「刊本とWebは共存でき、Webは成長する区史として、刊本は頭出しをするものとして棲み分けをしても良い」とのご意見を踏まえ、図書館等で頒布するなど、冊子として一定数発行します。
- (2) 「(仮称)新・港区史」本編は、全編書き起こしにより編さんするため、歴史学科のある大学をはじめ、公共図書館、都内国立大学、資料提供者、協力者等広く配付する必要があります。
- (3) 「(仮称)新・港区史」は、原則としてWeb公開を軸にしていくものの、手に取って本を読みたい区民ニーズに応える必要があります。新修港区史の有償頒布の状況を踏まえ、一定数を販売分とします。

3 配付及び寄贈先について

上記2(1)(2)の考え方を踏まえ、配付及び寄贈先を次のとおりとします。

(1) 自然編、原始・古代・中世編～現代編、資料編について

新修港区史は900冊を配付及び寄贈としていましたが、発行から39年が経ち、社会背景が大きく変貌し、Webが広く利用されており、今回の編さんにおいては公開を基軸とすることから、配付及び寄贈先は国立国会図書館や22区、都道府県図書館、歴史学科のある大学図書館等に限定し、700部とします。

(2) 図説版について

図説版は、上記(1)とは異なり、1冊ですべての時代を網羅し、図版や写真を多用した分かりやすく親しみやすい内容とします。このことから、上記(1)の配付及び寄贈先の他、より広く多くの人目に触れてもらうことを目的とし、小・中・高等学校や区民センターといった区関連施設などにも配付し、町会・

自治会などにも寄贈し、1,300部とします。

4 販売について

上記2(3)の考え方を踏まえ、販売については次のとおりとします。

(1) 販売の有無について

区史は、原則として Web 公開を基軸にしていくものの、手に取って本を読みたい・手元に置きたいといった区民ニーズに応える必要があります。このため、販売を行います。

(2) 販売部数について

販売部数については、新修港区史が発行部数の4割としていますが、発行から約40年経っているにもかかわらず、現在約70部残部があることや、Web公開を基軸とした今回のコンセプトに基づき、販売部数は発行部数の3割程度とします。よって、自然～現代・資料編については300部(発行部数1,000部)、図説版は500部(発行部数1,800部)とします。

(販売金額については、新修港区史の金額や算出方法を勘案し、決定予定)

【参考】

(港区)

港区史(昭和35年発行)非売品

新修港区史(昭和54年発行)有償頒布(9,000円 ※)

印刷数 1,500部印刷のうち600部有償頒布

※9,000円の算出方法

発行に要した経費から版下代や原稿料等の経費を除き、単に印刷製本に要した経費を発行部数で割って算出。

(他自治体)

自治体名	葛飾区	八王子市	市川市
発行部数	3,000部 うち1,000部寄贈	1,500部 寄贈部数不明	自然史編 1,500部(他の編は1,200部を想定) うち500部を寄贈
寄贈先	区内の小中学校・高校全校、区内大学、区内図書館、博物館、23区および近隣自治体など	市内の小中学校全校、関連する高校・大学(調査先、先生が関連している・お世話になっている)、近隣の博物館(刊行物を交換しているところ)、近隣自治体(町田市・相模原市)など	市内の図書館及び学校、文化財保護審議会、近隣の自治体(隣接する市のみ)など